



当社の活動は、公式WEBサイトでも公開しています。
<https://www.taiseirotec.co.jp/>



2025

TAISEI ROTEC SUSTAINABILITY REPORT

大成ロテック サステナビリティレポート



本報告書は、環境に配慮した印刷工程と印刷資材を採用しています。
再生可能資源で環境負荷を大幅に低減する植物油含有の印刷インキと、適切に管理された森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用しています。



大成建設グループ
大成ロテック株式会社

For a Lively World

TAISEI ROTEC SUSTAINABILITY REPORT

CONTENTS

企業理念	01
会社概要	03
中期経営計画(2024～2026年度)	03
営業所ネットワーク	04
社長メッセージ	05
特集 未来へつなぐ復旧力 奥能登地震と私たちの挑戦	07
技術力を最大限発揮して未来を創造	09
マネジメント報告	13
従業員とともに	15
Topics 製品事業本部の取り組み	17
地域社会とともに	18
安全衛生管理体制	19
環境活動報告	21
2024年度の工事实績	22

編集方針

本報告書は、大成ロテック株式会社が社会に果たす役割とさまざまな取り組みを皆様にお伝えし、当社の活動に対する理解を深めていただくことを目的に発行しています。

対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日

*一部期日を明記した上で当該期間以外の内容も記載しております。

お問い合わせ先

大成ロテック株式会社 社長室 経営企画部
東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー
TEL 03-5925-9435 FAX 03-3362-5804

安全衛生方針

安全第一の精神を基本として、先取り型の安全衛生管理活動を全員参加で実践し、法令を順守し、労働災害、公衆災害、交通事故を撲滅して、健康でストレスのない明るい快適な職場を構築する。

環境方針

地球環境、地域環境の保全を推進し、資源の有効な利用によって、循環型社会の実現に取り組み、次世代に託す美しい快適環境を創造する。

品質方針

創造力と知恵を結集して技術の研鑽に努め、社会と顧客から評価され信頼される品質を提供する。

企業理念

自然と社会と人に
深くかかわる企業として、
人々のために
より良い環境を創造する。

大成ロテック株式会社は、持続可能な開発目標の設定を通して、企業の社会的責任を果たし、人びとのためにより良い環境を創造して社会とすべての利害関係者の信頼を得られるように努める。これを実現するためのマネジメントシステム方針をここに定める。

会社概要

商号 大成ロテック株式会社
(英文名TAISEI ROTEC CORPORATION)

本社 東京都新宿区西新宿8-17-1
住友不動産新宿グランドタワー

設立 1961年6月15日(昭和36年)

資本金 113億5百万円

建設業許可 国土交通大臣許可 (特-4)第1964号

建築士事務所登録 1級建築士事務所(東京都知事登録第21111号)

建設コンサルタント登録 国土交通大臣登録 建06第130号

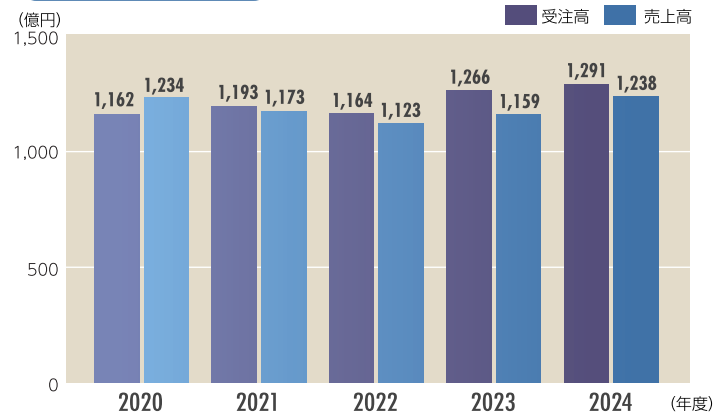
宅地建物取引業免許 東京都知事(13)第 33255号

従業員数 1202名(2025年3月31日現在)

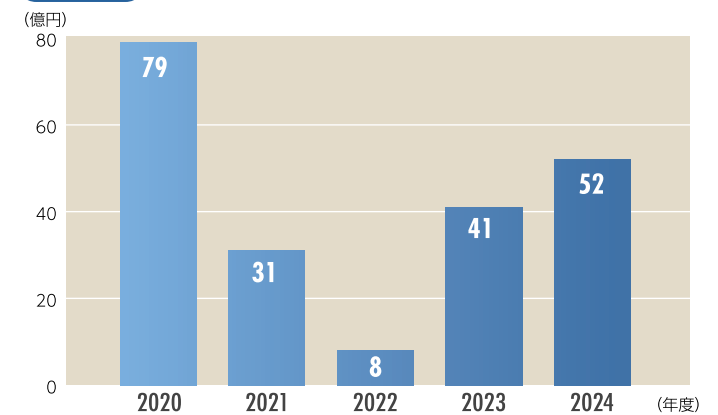
営業種目

- 次に掲げる工事の設計、施工、監理およびコンサルティング
(1)道路工事 (2)舗装工事 (3)防水工事 (4)管工事 (5)造園工事
(6)その他の土木工事 (7)その他道路に関する工事 (8)建築工事
- 建設用資材の製造および販売
- 建設機械器具の設計、製作、販売、修理および賃貸
- 道路、空港、上下水道その他公共施設等の企画、建設、
保有、維持管理および運営
- スポーツ施設、飲食店等の商業施設、医療介護施設等の経営および賃貸
- 産業廃棄物の処理ならびにその再生品の製造および販売
- 不動産取引および不動産管理に関する事業
- 発電およびエネルギー供給事業
- 貨物利用運送事業
- 前各号に付帯関連する一切の事業

受注高および売上高



経常利益



中期経営計画(2024～2026年度)

当社は業績において業界トップレベルを目指すとともに、品質問題等のトラブルを撲滅し、強い決意のもと、真の「世のため人のための企業」として社会から評価をいただける企業を目指すため、新たな中期経営計画(2024～2026年度)を策定しました。

基本方針

Sustainability

持続的成長を実現していくために
私たちは未来に向けて挑戦します

◎コンプライアンス遵守を全ての事業活動の
基軸とし、下記を重点施策とします。

1

人材の獲得及び育成

2

本業の拡大

3

新規事業の収益化

4

技術開発の推進

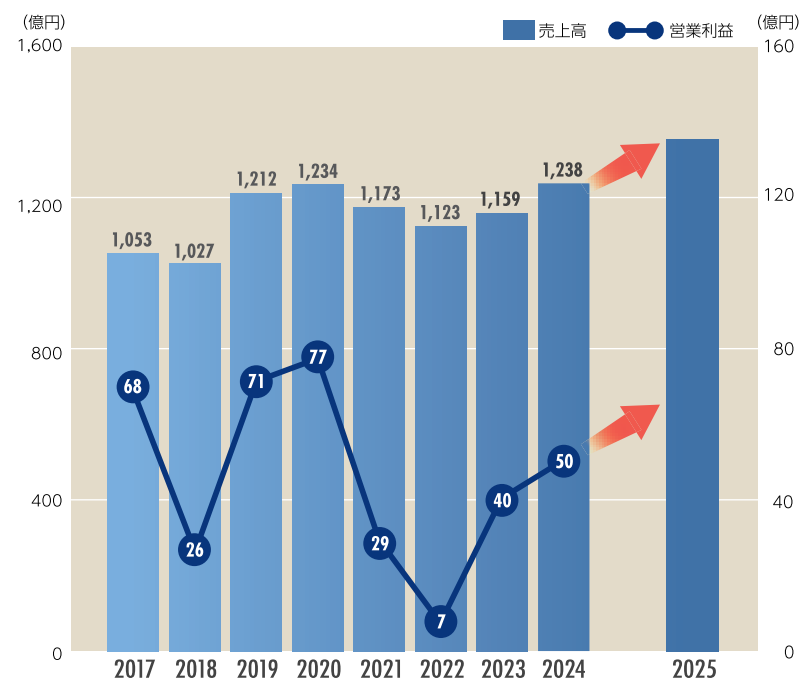
5

安全・環境・品質の向上

6

グループ力の強化

経営数値目標



営業所ネットワーク (2025年7月1日現在)

本社を中心に支社、営業所、合材工場など、日本全国に拠点を設置。
各種工事の施工、アスファルト合材の製造・販売など、万全の事業ネットワークで豊かな社会づくりに貢献します。



1 本社

技術研究所/機械技術センター/鴻巣研修センター

2 北海道支社

道央エリア 札幌営業所/札幌中央アスコン

道北エリア 旭川営業所/釧路営業所/遠別営業所/大雪アスコン/
遠別合材工場/丹頂アスコン/弟子屈合材工場

道南エリア 苫小牧営業所/日高営業所/苫東アスコン/門別合材工場/
洞爺アスコン

3 東北支社

北東北エリア 岩手営業所/青森営業所/秋田営業所/岩手中央アスコン/
久慈中央アスコン/秋田アスコン

宮城エリア 宮城営業所/山形営業所/仙台東アスコン/
山形セントラルアスコン

福島エリア 福島営業所/福島北営業所/相馬営業所/いわき営業所/
福島県中央アスコン/福島・県北アスコン/相馬アスコン/
いわきアスコン/若松アスコン

4 東関東支社

千葉エリア 千葉営業所/成田営業所/房総合材工場/成田アスコン

船橋エリア 船橋営業所/柏営業所/トーセキアスコン

茨城エリア 茨城営業所/ひたちなか営業所/鹿島営業所/石岡合材工場

5 北関東支社

北関東第一エリア 北関東第一営業所/栃木営業所/浦和アスコン

北関東第二エリア 北関東第二営業所/花園営業所/群馬営業所/
花園合材工場

6 南関東支社

東京エリア 東京営業所/東京青海合材工場/東京臨海リサイクルセンター/
城南島リサイクルセンター/首都圏資材センター/
東京乳割センター

横浜エリア 横浜営業所/川崎営業所/箱根伊豆営業所/相模アスコン/
金沢アスコン

多摩エリア 多摩営業所

7 北信越支社

信越エリア 信越営業所/長野営業所/新潟合材工場

北陸エリア 北陸営業所/富山営業所/加賀アスコン

8 中部支社

名古屋エリア 名古屋営業所/エーシートヨアケ

尾張エリア 尾張営業所/小牧合材工場

三重エリア 三重営業所/名四アスコン

静岡エリア 浜松営業所/湖西アスコン/静岡つばさアスコン/イワレキ

9 関西支社

大阪エリア 大阪営業所/岸和田合材工場

神戸エリア 神戸営業所/せいしんアスコン/姫路アスコン

京阪エリア 京阪営業所/京都営業所/福知山営業所/舞鶴みなと営業所/
大阪アスコン/福知山合材工場/舞鶴みなとアスコン/
京丹後アスコン/綾部アスコン/福知山丹波アスコン

10 中国支社

東中国エリア 東中国営業所/鳥取営業所/津山合材工場/鳥取合材工場

中中国エリア 中中国営業所/島根営業所/広島合材工場/呉合材工場/
島根アスコン

西中国エリア 西中国営業所/防府アスコン

11 四国支社

四国エリア 四国営業所/池田アスコン/脇町アスコン

12 九州支社

北部エリア 北部営業所/大分営業所/佐賀営業所/玄海アスコン/
福岡サテライト工場/豊海アスコン/佐賀合材工場

中南部エリア 中南部営業所/宮崎営業所/鹿児島営業所/熊本合材工場/
阿蘇合材工場/ひむか合材センター

13 沖縄支社

沖縄エリア 沖縄営業所/美ら島アスコン/久米島合材工場

14 国際支社

持続的成長を実現していくために、私たちは未来に向けて挑戦します。



代表取締役社長 加賀田健司

サステナビリティとは、「環境」「社会」「経済」の3つの観点で調和を図り、長期的に継続できる世界を築いていくという考え方です。当社は長年にわたり、「自然と社会と人に深くかかわる企業として、人々のためにより良い環境を創造する」という企業理念のもと、成長を続けてまいりました。しかし、近年では地球環境の変化や社会的課題が深刻化する中で、企業が持続可能な未来に向けてどのように貢献できるのかが問われています。

当社は、省エネ・CO₂削減技術の研究開発や循環型社会への貢献など、環境に配慮した事業展開を行い、地域社会との連携を通じて社会的責任を果たしてまいります。さらに、ステークホルダーの皆さまとの価値協創が重要であることを踏まえ、2025年3月に掲げた「マルチステークホルダー方針」に則り、企業の信頼性を高め、社会に対して価値ある存在であり続けることを目指します。

また、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の理念の下、多様性の尊重や働き方改革を推進し、社員一人ひとりが安心して働ける環境を整えることにより、「社会に信頼される」企業へと成長し、「社員にとっても家族にとっても素晴らしい会社」となるよう全力で取り組んでまいります。

そして、「人権の尊重」を企業活動の基本として位置づけ、差別やハラスメントのない職場環境を確保するための取り組みを進めています。「人権の尊重」とは、社員が持つ能力を最大限に発揮できる環境を提供するだけでなく、社会に対する責任を果たすための基盤であると考えています。

Medium-Term Management Plan

中期経営計画(2024年度～2026年度)について

本中期経営計画(2024年度～2026年度)においては、私たちの持続可能な成長と地域社会へのさらなる貢献に向け、社会から評価を得られる企業を目指してまいります。

具体的には、以下の3つのテーマに重点を置いて取り組んでまいります。

1 社会活動を支えるインフラの整備を通して、広く社会に貢献する。

事故災害を起こすことなく、発注者の要求事項である仕様書や図面などにに基づき、法令を遵守して事業を正しく進めます。また、「SDGs」や「脱炭素」に対応した新たな技術の開発や新たな事業に挑戦し、社会の要請に応じて社会貢献を果たしていきます。

2 社員を大切にすることを経営の中心に据え、人の集う働きがいのある会社を目指す。

社員一人ひとりの声を大切にし、心理的安全性を高めて働きやすい環境を構築していきます。

3 業界のリーディングカンパニーを目指す。

高付加価値化と生産性を高め、リーディングカンパニーとして業界を引っ張っていきける地位を目指し、社員をはじめ広くステークホルダーに貢献していきます。

サステナビリティへの取り組み

Sustainability Development

持続可能な発展に向けて

私たちは、これらの取り組みを通じて持続可能な未来の創造に向けた歩みを加速させ、サステナビリティを経営の中心に据え、社会と環境に配慮した事業運営を進めていきます。未来を見据えた革新的なアプローチを通じて、持続的な社会の実現に向けて貢献していくことをお約束します。



未来へつなぐ復旧力

奥能登地震と私たちの挑戦

能登半島地震と奥能登豪雨

2024年元旦、16時10分に石川県能登半島、珠洲市北東部を震央とするマグニチュード7.6の内陸地震が発生し、最大震度7を観測しました。この地震により津波の襲来のみならず、奥能登地域を中心に土砂災害、火災、液状化現象、家屋の倒壊、交通網の寸断など、甚大な被害をもたらしました。

さらに、同年9月21日から23日にかけて、台風が温帯低気圧へと変わり、活発な秋雨前線の影響で線状降水帯が発生しました。これにより奥能登地域は観測史上最多の降水量を記録する豪雨となり、広範囲にわたり土砂災害や浸水被害に見舞われました。

当社の対応

当社では、本社と北信越支社に災害対策本部を立ち上げ、指揮命令系統を確立し、社内や関係機関との情報共有や連携を通じて、災害対応の効率化を図りました。

震災直後には、現地に多くの職員が派遣され、能登の大動脈である国道249号線などの応急復旧や、珠洲市などでの応急仮設住宅の外構工事を担いました。山がちな半島の先端部で、交通インフラが十分ではない困難な地域において、今もなお復興工事が続いています。

主な公共工事の日程

発注者	地 域		2024												2025					
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
国土交通省	輪島市	令和6年能登半島地震 国道249号等応急復旧工事その6																		
	珠洲市	R6 249号珠洲地区舗装復旧その1工事																		
	珠洲市	R6～8 249号珠洲地区道路復旧その5工事																		
	穴水町	能登半島災害復旧工事																		
	輪島市	国道249号 中屋トンネル復旧工事																		
防衛省	輪島市	輪島(5)災害復旧工事																		
石川県	輪島市	応急仮設住宅																		
	珠洲市																			
	能登町																			
	穴水町																			



■ 応急復旧状況(国道249号う回路)

舗装打替え工 表層敷均し



舗装打替え工 表層敷均し



大型かご工 割栗石投入



【施工後】



■ 応急仮設住宅



復旧に携わった社員のコメント

震災直後、現地に到着した際には、想像を超える厳しい状況が待ちっていました。被災地には宿泊施設がないため、150km以上離れた小松市の事務所から毎日4時間、往復で8時間かけて復旧作業や応急仮設住宅の現場へ通いました。途中には倒れた電柱、壊れた家屋、べしゃんこになった車が並び、胸が痛む思いで運転しました。

避難所となっていた校舎からは、毎日のように子どもたちや高齢の方々から「ありがとう」「頑張って」と声をかけていただきました。その言葉に疲れた心と身体が幾度となく支えられ、「早く復興工事を進めよう」「この人たちのために、一日でも早く住まいを用意しよう」との思いを強くしました。この思いが現場全体に一体感をもたらし、数百名の作業員が無事故で作業をやり遂げる力となりました。

また復旧作業をする上で、資材や機械の手配に時間がかかり、思うように工事が進まないという課題もありました。もし現地に資材をストックできる置場や、作業員が宿泊できる施設があれば、もっと迅速に対応できたのではないかと感じています。自然災害はいつでもどこで起こるか分かりません。だからこそ、今回の経験を活かし、次に備える体制づくりが必要だと強く感じています。

被災された皆さまが一日でも早く元の暮らしに戻れるように、引き続き全力で尽力していきます。

技術力を最大限発揮して未来を創造。——— 長年培ってきた技術力・知識から生まれた多くの新技術・工法があります。環境の保全・資源の有効利用など、SDGs達成の一翼を担っています。

路面騒音の抑制

排水性・透水性舗装「ポーラスペーブ」

連続した空隙を有するポーラスアスファルト混合物が、タイヤと路面の接触時に発生する騒音を抑制する舗装です。

PRMS多機能工法

排水性舗装の表面の空隙部に弾性レジンモルタルを充填する工法です。弾性モルタルがタイヤと路面の接触時に発生する騒音を抑制します。

ヒートアイランド対策

保水性舗装「クールロード」

ポーラスアスファルト舗装の空隙に充填した特殊なセメントグラウトが水を蓄え、その蓄えられた水が蒸発する際に路面温度の上昇を抑制する舗装です。

遮熱性舗装「クールウェイ」

太陽光のうち、物体の温度を上げる“近赤外線”を効率良く反射する特殊な塗料“遮熱性塗料”を舗装の表面に塗布した舗装で路面温度の上昇を抑制します。

長寿命化技術

リラックスファルトHT舗装

変形追従性（たわみ性）や応力緩和性、塑性変形抵抗性を改良した特殊改質アスファルト混合物を用いて、ひび割れとわだち掘れの発生を抑制する長寿命化舗装です。維持管理におけるコストダウンを図ることができます。



TR200'S 舗装

エポキシ樹脂をアスファルトに添加した高強度アスファルト混合物です。剛性および靱性に富んでいるため、トンネル内舗装や重交通路線など、「高耐久性」が要求される舗装に最適です。

TRタフペーブ

特殊改質剤の使用により、通常の改質アスファルト混合物に比べて、耐流動性と耐油性を向上させた高耐久なアスファルト混合物です。大型車が多く往来する駅や空港などのターミナルや物流倉庫、工場や車両の整備場など油漏れが懸念される箇所などの舗装として最適です。

維持・修繕

ワンダーコーティングシステム

1 ガラスコートシリーズ

構造物の延命を目的に開発された高性能塗装システムです。構造物へ常温での塗装が可能で、乾けばガラス質膜が形成されます。ガラス質膜が構造物表面を風雨や紫外線等から守り、構造物の寿命を延ばし、メンテナンスを容易にします。劣化の防止、外観の長期維持、および汚れを簡単に除去できる機能を持つガラスコーティング技術です。



〈施工前〉



〈施工後〉

2 木材コートシリーズ「モッコート」

外装木材の耐久性を大幅に向上させる無機系水性塗料です。外装木材に塗布することで、紫外線や降雨などの外的な劣化因子から長期的に木材本来の美観を保護します。

〈未塗装〉



初期



3,000時間後

モッコートを塗布すると、色や木目の美しさを維持することができます。



初期



3,000時間後

3 塩害・港湾施設対策シリーズ「マリンガード」

港湾コンクリート構造物などの塩害対策として開発された高機能塗装システムです。1日で施工可能な速乾性の塗料であり、塗るだけで透明なガラス質膜を形成できます。

工期短縮や効率的な工程立案が可能になり、かつ施工中に異物などの混入リスクが大幅に削減できるため、塗膜の品質向上に寄与し、塩害などから構造物を確実に守ります。また、供用後も基盤の目視観察が可能であり、構造物の変状を早期に把握できるため、維持管理の効率化が図れます。

当技術は、第8回インフラメンテナンス大賞で国土交通大臣賞(技術開発部門)を受賞しました。



塗膜が透明なので、コンクリート表面の様子がよくわかります

フラットバーステッチ工法

ひび割れなどにより荷重伝達率が低下したコンクリート舗装版を、鋼製フラットバーで連結してコンクリート舗装版の機能を回復させる補修・補強工法です。



〈フラットバー挿入状況〉



〈施工後〉

景観舗装

ウッドファイバー舗装

間伐材を再利用したウッドファイバーと樹脂を用いた舗装で、クッション性が高く自然に調和する舗装です。

ソフトウォーク

リサイクルゴムチップを用いた舗装です。透水性と適度なクッション性を有し、歩径路やジョギングコースの舗装に適しています。



インジェクト工法

大型車が走行しても破損しない、耐久性抜群の自然石舗装の構築工法です。歩車道一体の石畳の景観舗装を可能とします。

最初の施工場所は定期バスや大型観光バスが走行する路線で、供用開始から30年が経過しましたが、良好な供用性を維持しています。景観舗装として、駅前広場や商店街、神社仏閣など全国各地で多くの実績があります。



JR東京駅丸の内駅前広場



出雲大社前

TNC自然色舗装

脱色アスファルトを用いて、天然の骨材が持つ自然な色彩をそのままに、さまざまな情景にマッチする自然色舗装です。

防 災

地下貯留工法

公園や駐車場などの地下に貯留槽を構築する工法です。都市部のゲリラ豪雨など、短い時間で降った大量の雨を一時的に貯留することで、道路等の冠水の発生を抑制します。

スーパーフレックスファルト

アスファルトフェーシングダムや貯水池のアスファルト表面遮水壁に使用する、たわみ性に優れひび割れの発生を抑制するアスファルト混合物です。地震時の急激な堤体の変形にも追従し、アスファルト表面遮水壁の耐震性が向上します。

常温合材

TRミックスアックア

「充填する・水をかける・踏み固める」の3ステップで施工できる専門技術不要の全天候型高耐久アスファルト補修材です。

袋から出してそのまま使用でき、水しか使用しないので、誰でも簡単に安全に作業できます。水と化学反応して硬化する画期的なアスファルトで、約30分で硬化。すぐに交通解放が可能です。

雨天でも使用することができ、緊急時の舗装復旧だけでなく、ポットホルの穴埋めや段差解消のためのスロープ状のすりつけ等、簡易的な補修や雑草の抑制などにも活用できます。

幅広い用途があるため、自衛隊、高速道路㈱、ゴルフ場、駐車場管理会社、ホームセンター等で採用実績があります。



環境改善技術

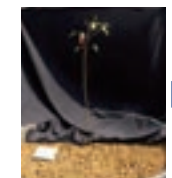
ブレスパイプバンブー

竹林整備で発生した竹の炭や腐葉土などを活用し、改良材として充填。保水性と通気性のバランスを図った竹筒型土壌環境改良材です。

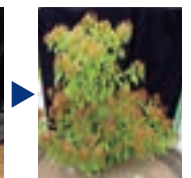
長期にわたって有効成分と空気を土壌中に供給、根の育成が格段に向上し、樹勢が大きく回復します。

■18ヶ月後の成長促進比較

〈ブレスパイプバンブーなし〉



〈ブレスパイプバンブー3本〉



「技術」という力であらゆる可能性を創造する2つの研究施設 T-FIELD

当社は、次世代を見据えた革新的な舗装技術の開発と早期の社会実装を推進しています。既存の技術研究所に加え、大成建設グループの新たな研究施設として、埼玉県幸手市に「次世代技術研究所/幸手」を、福島県田村市に「次世代技術実証センター/田村」を建設しています。

T-FIELD SATTE 道と建物の脱炭素化フィールド 大成建設グループ 次世代技術研究所/幸手

舗装に使用する新たな材料や施工方法、高耐久・長寿命化技術、DX技術などの開発を促進し、ゼロカーボンの実現などに向けた次世代技術の研究開発を行います。

「管理」と「研究」を司る管理研究棟

管理研究棟は、調達(建設資材製造・入手)・施工・運用・解体まで含めた建物のライフサイクル全体で発生するCO₂収支ゼロとなるゼロ・カーボン・ビルを設計レベルで実現しています。外観は所在地である埼玉県幸手市の市花である「桜」をモチーフにしたデザインとし、地元に親しみのある、地域に開放された施設を目指します。



脱炭素化を実現する2つのプラント アスファルトの製造ラボ・コンクリートの製造ラボ

舗装の主要な材料として用いられる「加熱アスファルト混合物」と「セメントコンクリート」の革新的技術の開発のために設けた専用の実験プラントです。

アスファルトプラントではCO₂由来の炭素を多く含む「リグニン」を活用したアスファルト混合物など、CO₂排出を抑制・削減する新材料の製造、貯蔵実験を行います。コンクリートプラントではJIS認証を取得し、CO₂の固定や削減を実現するセメントコンクリート材料の研究をさらに推し進めます。また、これらの2つのプラントは作業の無人化などのDXにも対応可能な拡張性をもった設計がなされています。



アスファルトプラント
製造能力: 48t/h



コンクリートプラント
製造能力: 78m³/h

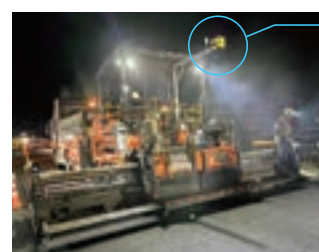


道路のテストフィールド



テストフィールド

幅5m×延長120m×3レーンの舗装用材料などの施工実験、DX技術の開発・進化のための実証実験を行う実践規模の広大なフィールドです。また2つの製造ラボと連動させることで実験効率と実証精度を最大化させます。



- 舗設直後の合材温度を自動測定し、温度の計測作業を削減
- 低温箇所の即時把握により舗装品質を確保



ICT施工

T-FIELD TAMURA 道と自然共生の実践フィールド 大成建設グループ 次世代技術実証センター/田村

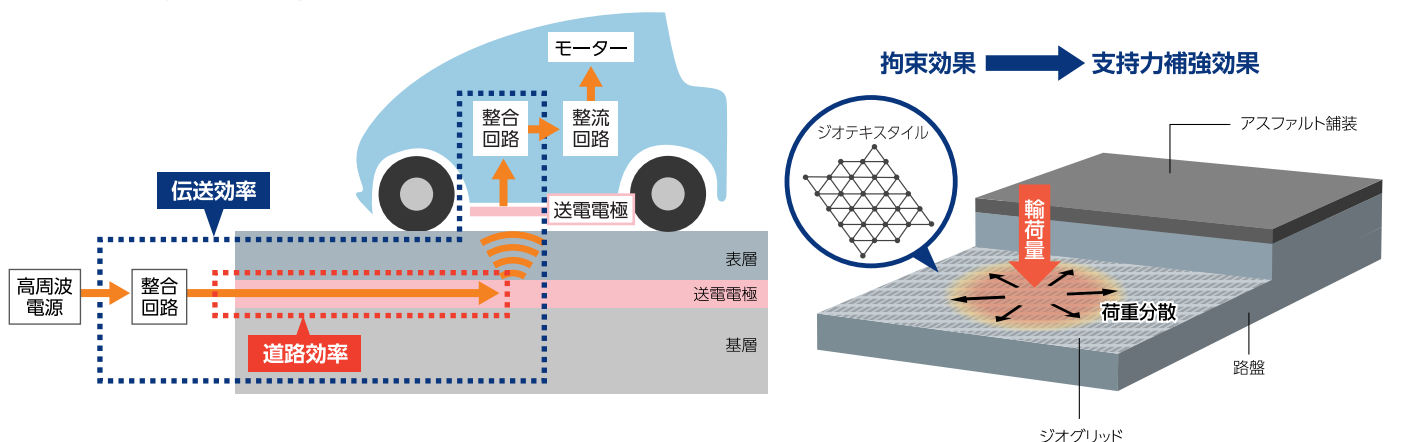
舗装の耐久性を実寸大の走路にて評価する国内民間企業初となる施設です。新たに開発した舗装材料や舗装構造をできるだけ早く実用化するために、私たちは実寸大の舗装のテストコースを建設しました。



舗装のテストコース

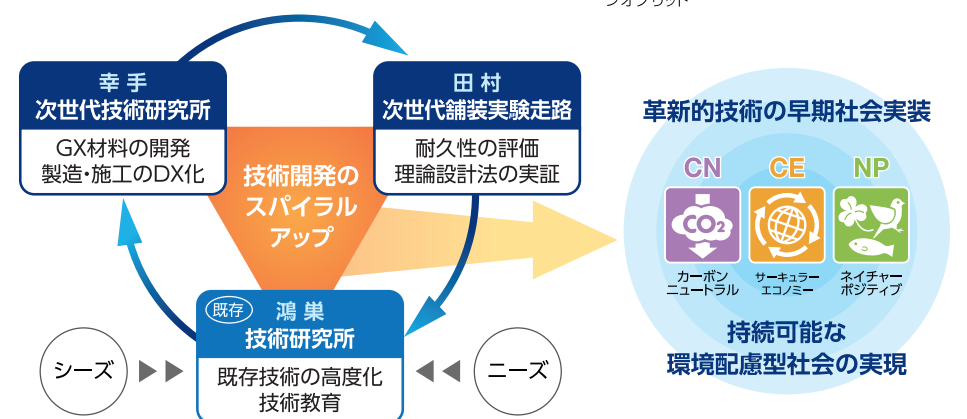
直線区間200mを含む、1周909mの舗装のテストコースは1区画を50mとし、同時に18種類の舗装の耐久性の評価が可能です。大型荷重車5台による昼夜連続走行実験を自動制御による無人運転で運行することで、実路では通常10年程度要する耐久性評価を約3年に短縮することが可能です。

脱炭素技術や建設インフラの長寿命化技術・電気自動車・自動運転に適した次世代道路技術など、時代のニーズに合わせた新たな技術のスピーディーな社会実装を目指していきます。



可能性を実現する3つの研究施設を連動させた技術開発

これまで当社が基礎研究の開発拠点としていた鴻巣技術研究所に、次世代技術研究所(幸手)、次世代技術実証センター(田村)を加え、それぞれの施設を効率的・効果的に利用し、革新的な舗装技術・環境負荷軽減技術の効率的な開発を行います。また、得た技術を早期に社会実装することにより、持続可能な社会の実現を目指します。



持続的成長と中長期的な企業価値の向上へ。

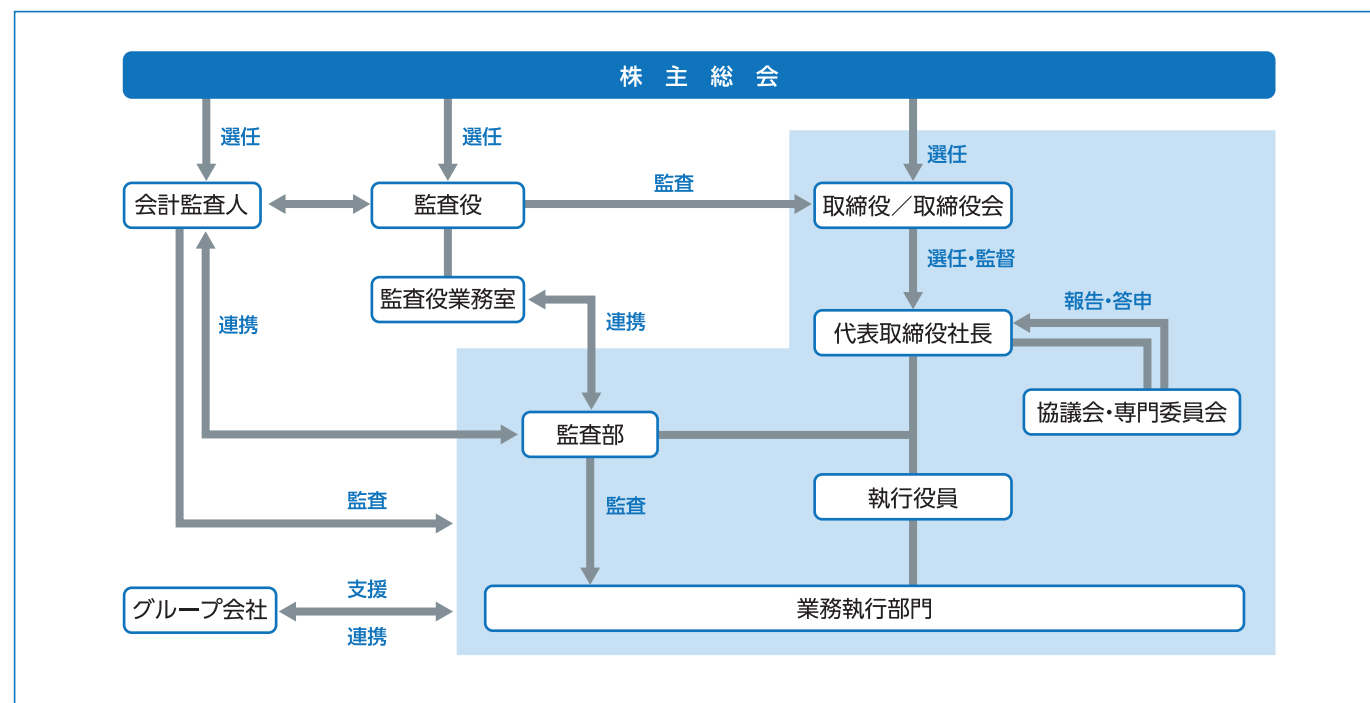
企業統治

大成ロテックでは、経営の効率化・透明性・健全性を高めるためにコーポレートガバナンス体制の充実・強化を図り、企業価値を向上させることを目指しています。

取締役会（社外取締役を含む）は、経営上の重要事項の決定と業

務執行の監視を行います。監査役は、取締役会などの重要な会議への出席を通じて取締役の職務執行の適正性・健全性について監査を実施しています。また、執行役員制度を導入し業務執行の効率化・迅速化を図っていきます。

■コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンスの推進

大成ロテックでは、「大成ロテック企業行動規範」を基本にコンプライアンスを推進し、社会から信頼される企業となるため、法令などの遵守や公正な取引の確保などを図っています。

また、今年度は昨年度に引き続き、「法務コンプライアンス部」および「監査部」を中心に、一連の独占禁止法違反事件を受けて策定した再発防止策に関するフォローを重点的にを行い、関係各部門と連携することにより、再発防止策のさらなる徹底を図っています。

具体的な取り組み

■工事、管理、営業および製品販売など各部門の役職員に対してコンプライアンス遵守を徹底させるために、継続的にコンプライアンス研修を開催しています。また、独占禁止法違反に対する再発防止策として、入札関係者に対してコンプライアンス研修を開催しています。本年度は、これまでの施策（ルールベース）の展開に加えて、不祥事や事件などの調査・原因分析結果を踏まえた実践的な研修を行い、原理原則（プリンシプルベース）による考え方を浸透・定着させることで、コンプライアンスに対する「知識と意識」の浸透・向上を図ってまいります。

■2018年4月から、全社員に対して「コンプライアンス通信」を発行しています。品質不良・ハラスメント・情報漏えい・贈収賄など毎回テーマを変え、月に1回を目途に配信し、コンプライアンス遵守意識の向上に努めるとともに、日常業務におけるコンプライアンス資料としての活用も図っています。

■営業活動におけるコンプライアンス遵守状況の確認のため、社内規程「独占禁止法遵守のための行動指針」「入札業務の適正確認手続きに関する細則」に則り、毎年入札業務の監査を行っています。



コンプライアンス研修の様子

情報セキュリティ対策

情報化社会は私たちの生活を便利にし、多様な利益をもたらしています。しかし、その利便性の裏には、サイバー攻撃やインターネット上のトラブルといったさまざまな危険が潜んでいます。これらの脅威から会社の情報資産を守るために、情報セキュリティレベル

の向上を図り、社員が守るべき基本事項を定めた「情報セキュリティ管理規程」を策定し、eラーニングを活用した研修の実施をはじめとする、さまざまな情報セキュリティ対策を実施しています。

個人によるX（旧Twitter）、Facebookなどの情報発信メディアに関連するトラブルを防ぐための行動指針として、「ソーシャルメディア利用ガイドライン」を策定しています。

マネジメントシステム

当社は現在、外部機関から認証を受けた品質・環境・安全の3マネジメントシステムを社内でも運用しています。

実態が外から見えにくい品質管理システム、環境管理システムについては国際規格であるISO9001とISO14001に基づく認証登録を受けています。マネジメントシステムの運用状況を毎年外部認証機関から審査を受け業務の継続的改善に努め当社の継続的成長に繋がっています。

社外からその活動が見えやすい安全システムは、COHSMS（コスモス）に基づく外部認証を受けた安全衛生管理システムを構築・運用し当社の安全衛生管理を行い事故災害の防止に努めています。

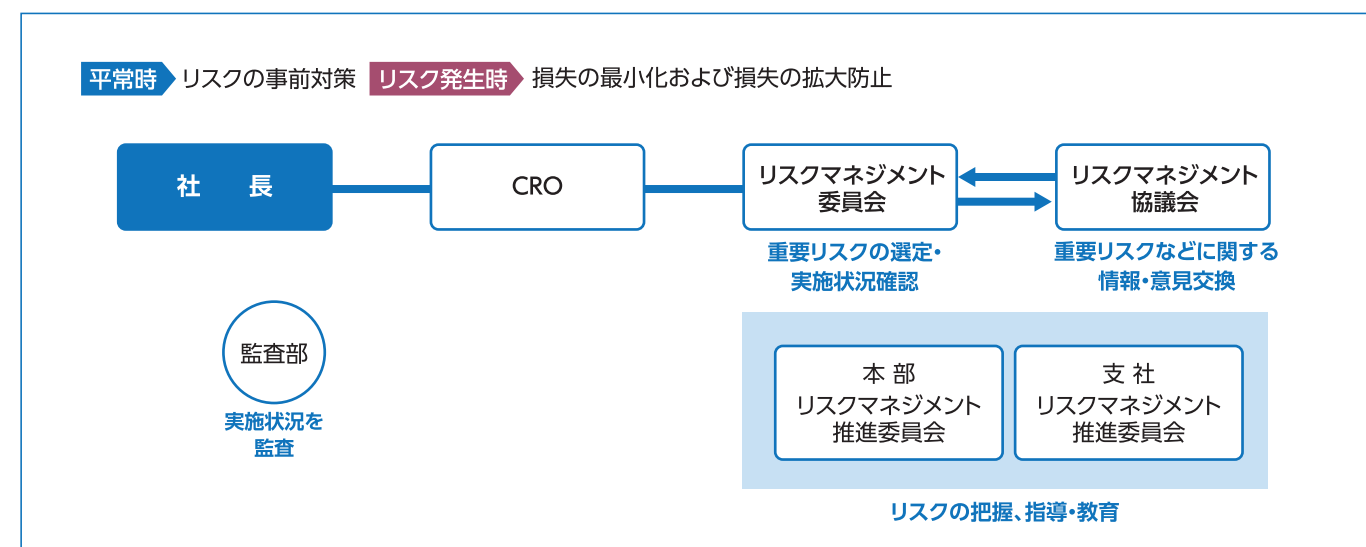


リスクマネジメント

会社の社会的信用を損なわせる可能性のある事象、会社に人的・物的もしくは経済的損失を発生させる可能性のある事象をリスクと定義し、各本部・支社において抽出されたリスクの中から、特に影響度や発生の可能性・頻度が高いリスクについては「全社重要リスク」として管理・周知を図り、適宜必要に応じて見直しを実施しています。各部門ではそのリスクについて日常的にモニタリングし、

リスクコントロールの実施の有無をチェックしています。また、監査部はリスクマネジメントの実施状況に関する監査を行っています。継続的なリスクマネジメントにより、リスク発生の予防、リスク発生による損失の最小化、再発の防止およびリスク対策の評価と改善を図り、大成建設グループの一員として企業の社会的責任を果たしていきます。

■リスクマネジメント実施体制



一人ひとりが最大限に力を発揮できる環境づくり。

人権の尊重

「大成ロテック企業行動規範」で基本的人権の尊重を掲げ、社長を委員長とした人権啓発協議会を設置して、差別のない社会の実現とハラスメントのない良好な職場環境づくりを推進しています。また、人権啓発研修会の実施はもとより、各社内研修のカリキュラムにも人権研修を組み入れ、従業員に対し人権に対する意識の向上を図っています。

■人事啓発協議会

目的	1 同和問題をはじめ、社会に存在する様々な差別事象を正しく認識する。 2 不合理や差別を無くすよう努力する社員の行動を促進する。 3 人権尊重の目的を達成するための啓発活動を行う。
活動方針	1 「人権は本来持っている権利であり、全ての人が等しく幸せな生活を営むための基本的な権利」であることを正しく認識し、より良い人格形成を目指す社員の成長を支援する。 2 同和問題、障がい者、エイズ、セクハラなどの差別の実態を正確に理解し、集合研修や職場などで人権意識の高い従業員の育成を図る。

働き方改革の推進

週休2日制の実現 ▶ 2022年度以降は4週8休とする目標を掲げ、その実現を目指しています。

有給休暇平均取得日数(2024年度) ▶ 9.7日



働き方改革の動き

- 2021** 【1月】●介護・看護休暇規定の改定(時間単位の取得)
【4月】●女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画(第2期)
【7月】●社内コミュニケーション活性化(3C活動)の周知徹底
- 2022** 【7月】●健康経営宣言
【10月】●節目代休制度の運用開始
●育児休業規程・保存有給休暇制度の改定
- 2023** 【4月】●次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画(第6期)
【8月】●現場業務支援室発足
- 2024** 【4月】●女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画(第3期)

ダイバーシティの推進

多様な人材が活躍できる働きやすい会社を目指して

女性、外国人、障がい者などの「多様性のある人材活用」や、就業時間の選択制などの「多様性のある働き方」の推進を行っています。2024年4月には「女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画」を新たに策定し、男女ともに働きやすい会社を目指しています。

仕事と子育ての両立

社員が能力を十分に発揮できるように次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」の策定や、出産・育児や介護にかかわる休業・休暇制度の整備をしています。育児休業5日間を有給化し、男性社員の育児休業取得率100%を目指して取組みを推進しています。

■育児休業取得者数 (2023年度生まれ)	男性	20名取得(対象20名)
	女性	1名取得(対象 1名)

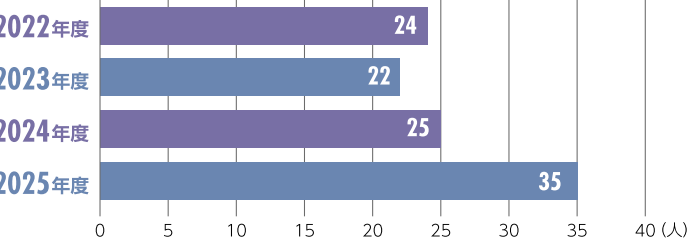
障がい者雇用率の達成

障がい者雇用を積極的に推進し、法定雇用率の達成を実現しています。

外国籍従業員の採用

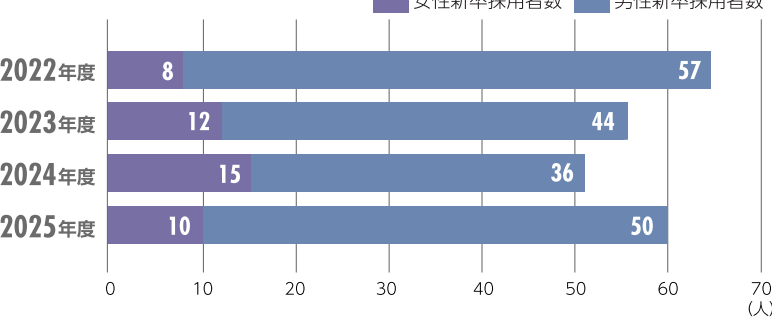
当社では、外国籍の社員も活躍しています。今後も継続した採用を行い、多様な人材の活躍を推進していきます。

■外国籍社員在籍人数推移



女性のさらなる活躍を推進

■女性の新卒採用人数推移



女性管理職の就任

女性の部長や室長・工場長が就任し、全国で活躍しています。

新たな行動計画の策定

男女ともにすべての社員が活躍できる雇用環境の整備を行うため「一般事業主行動計画(第3期)」を策定しました。本計画では、「女性技術者の割合の増加」や「時間外労働の削減」を目指すという2つの目標を設定しています。

人材啓発活動

新入社員研修に始まり、階層別研修や各種専門研修、資格試験対策研修を体系的に実施し、OJT教育、通信教育制度などと合わせて、従業員の成長をバックアップしています。



■スキルアップ研修・部門別専門研修 ※下記の研修は一例です

若手	中堅	役職者	スキル・その他
◎新入社員研修 ◎新入社員フォローアップ研修 ◎工事担当者(初級)研修 ◎工事担当者(営業職)研修 ◎製品事業若手社員総合研修 ◎2年次研修 ◎3年次研修 ◎5年次研修	◎新任係長格研修 ◎工事担当者(中級)研修 ◎工務担当者研修 ◎管理担当者研修 ◎製品販売担当者研修 ◎リスクマネジメント研修 ◎外国籍社員フォローアップ研修 ◎品質管理担当者研修	◎新任課長格研修 ◎マネジメント研修 ◎部長格研修 ◎営業所長研修 ◎工場長・工場マネージャー研修	◎1級土木受験対策研修 ◎1級舗装受験対策研修 ◎CAD研修 ◎契約管理セミナー ◎キャリア採用者研修 ◎職長・安全衛生責任者研修 ◎製品事業部統括安全衛生責任者研修 ◎合材工場設備担当者研修

新入社員研修の充実

2024年度の新入社員研修より、施工管理などの職種については、入社後1年間に研修期間としています。各支社で任命された指導責任者のもと、研修を通してさまざまな現場を経験し、幅広い知識の習得を目指しています。

また、施工現場のみならず合材工場での研修も実施しており、より実践的かつ総合的なスキルの習得を支援します。



社長・本部長表彰

2024年9月17日(火)・2024年12月19日(木)に「従業員表彰式」が行われました。

営業や設計・工事・技術・研究などの各分野で優れた成績を残し、社業の発展に寄与した個人や団体、グループを対象とした表彰です。2021年度より、表彰時期を固定しない顕彰制度も制定し、顕著な功績に対してスピード感を持った表彰を実現しています。



沖縄「美ら島アスコン」のリニューアルオープン 脱炭素社会と地域共生への貢献

大成ロテック株式会社（東京都）と株式会社七和（那覇市）の共同企業体が建設を進めていたアスファルト合材工場「美ら島アスコン」が、2024年7月に沖縄市登川にて開所しました。この新工場は、旧大成ロテック沖縄合材工場を全面リニューアルしたもので、脱炭素を含む環境への配慮をコンセプトとしています。沖縄の豊かな自然環境との調和を目指し、「美ら島アスコン」では多岐にわたる取り組みを進めています。これらの取り組みにより、アスファルト合材製造時の低炭素化が期待できます。

同工場は、DXへの取り組みとして、大成ロテックが独自開発したクラウド型受発注システム「アスプラネットシステム」の導入により、工場職員の業務効率化と顧客サービスの拡大も図られています。

美ら島アスコンの 脱炭素化に向けた取り組み

- ① 高効率機器の採用と稼働効率化を目指す省エネ型アスファルトプラント設計
- ② 合材製造の燃料をA重油からカーボンオフセットLPGに転換
- ③ 中温化（低炭素）合材製造装置の導入
- ④ グリーン電力への転換
- ⑤ 事務所の省エネ建築化



新工場名「美ら島アスコン」には、「インフラ整備のみならず環境的側面にも配慮し、沖縄という美ら島を後世に残していきたい」という思いが込められています。工場ロゴは、社員のアイデアにより、ハイビスカス、ミニサンダンカ、珊瑚礁などの沖縄の自然をちりばめたデザインが採用されました。

製品事業本部では、2022年度より大成建設グループ全社員が参加する環境負荷低減活動「TAISEI VISION 2030」を推進しており、事業活動によるカーボンニュートラルを目標に掲げています。今回の新工場の稼働により、脱炭素社会の実現に一步前進できたと考えています。工場経営を通じて、沖縄のまちづくりと質の高い品質・サービスの提供に貢献していきます。

高い意識でのぞむ地域貢献活動への取り組み。

本社・安全環境部

2024年12月

新宿年末クリーン大作戦

12月20日に新宿区の一斉清掃活動「新宿年末クリーン大作戦」に、大成建設グループとして初めて参加しました。午前7時30分、新宿駅西口周辺から清掃活動をスタート。路上や植え込みに落ちていた空き缶・ペットボトル・紙くずやたばこの吸い殻などのごみを回収しました。清掃活動を通して環境を意識する機会となりました。



北海道支社

2024年5月

山の手南小にてグラウンド整備

札幌工事事務所は、運動会を控える札幌市立山の手南小学校のグラウンドを整備しました。協力会社を含め14人が参加し、土埃を抑えるための塩化カルシウムをグラウンド一面に散布しました。



東北支社

2024年11月

干し柿援農 ボランティア交流会への参加

丸森第3号トンネル舗装工事における地域貢献活動として、施工場所の近隣農園にて干し柿作りを行いました。ボランティアとして東北支社の社員14名が参加しました。



北信越支社

2024年12月

高校生を招待して現場見学会を実施

北信越支社では、建設業を志す石川県の高校の生徒を招待して、「東海北陸自動車道 真木トンネル舗装工事」の現場見学会を開催しました。現場に行くと最初の緊張もほぐれ、近くの現場担当者からいろいろ質問をしていました。現場見学会後の安全VR体験など、「楽しかった!」との感想が多くありました。



DXへの取り組み



アスファルト合材のオーダーシステムをクラウド化し、さまざまなサービスを提供するプラットフォーム型オーダーシステムです。

スマートフォンなどの端末から、簡単に製品オーダー・品質管理・営業サポートに関する依頼を行えるようになり、顧客と工場の円滑な双方コミュニケーションが可能になりました。合材工場の省人化および顧客・工場双方の利便性向上に役立っています。

品質管理

試験表の作成、供試体試験対応など品質管理に関する業務の依頼を行ったり、メールにてデータを受け取ったりすることができます。

備品注文

常温合材などの舗装関連商品・安全関連商品・その他建設資材関係を掲載しています。また、商品の配送も可能です。

情報サービス

大成ロテックの技術情報閲覧など、さまざまなサービスが利用できます。

注文

アスファルト合材の注文、廃材の受入などの予約を行えます。注文内容を入力すれば予定のオーダーが可能となります。顧客側からもシステム上で予定の確認が可能です。

営業

見積書の作成依頼、アフターサービスなど、顧客へのサポートができます。



安全で快適な職場環境を形成。

安全衛生に関する取組み

当社は企業理念『自然と社会と人に深くかかわる企業として、人々のためにより良い環境を創造する』を実現するため安全衛生方針を定めています。

毎年1月に安全衛生環境管理基本計画を定め、その年の安全衛生環境目標を立て具体的な実施事項を定めると共に、経営トップの安全衛生環境に関する決意をメッセージとして発信し安全衛生の取組みを行っています。



安全衛生マネジメントシステム

企業理念にある安全衛生方針を遂行するため、当社では安全衛生マネジメントシステムを自ら構築・運用しています。

安全衛生に関するPDCAサイクル(計画→実施→評価→改善)により、持続的な取組みを行うとともに、事業活動に伴う労働災害防止と安全衛生水準の向上を図っています。

当社の安全衛生マネジメントシステムは、外部機関である建設業労働災害防止協会(建災防)の建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS)に適合し認定されています。

2025年 安全目標	重大災害	第三者人身災害 (公衆災害)	環境トラブル
	0 ゼロ	0 ゼロ	0 ゼロ

目標達成の
ための
管理指標

- ◎度数率／0.71以下(休業1日以上)(統計外含む)
- ◎災害率／1.92以下(不休災害以上)(統計外含む)
- ◎公衆災害発生件数／前年比50%減
- ◎交通事故発生件数／前年比40%減
- ◎熱中症の重症化根絶
- ◎環境トラブル／ゼロ

2025年 安全衛生推進事項

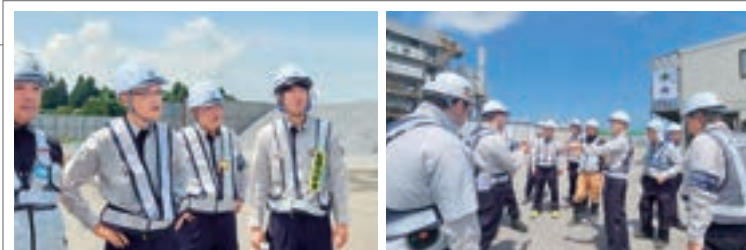
- 声掛け・声返し、指差し呼称運動
- 協力会社の安全管理能力の向上
- 4週8休の実現と時間外労働の削減、社員の健康増進と生産性の向上

さまざまな取組事例

パトロールの実施 当社では次のようなパトロールを実施して事故災害の撲滅に努めています。

■社長パトロール

社長によって行われる安全衛生パトロールです。



■本社安全環境部によるパトロール

安全週間・年末年始・年度末に合わせて行われるパトロールを含め、本社安全環境部が随時行う工事現場や工場のパトロールです。このパトロールでは安全・環境・品質の一元化の考えに基づき、安全だけではなく当社が認証取得している品質マネジメントシステム・環境マネジメントシステムの内部監査も兼ねた巡視を行っています。



■支社・営業所・工事事務所・合材工場によるパトロール

パトロール計画に則り、支社長をはじめとする支社幹部や営業所長・工事事務所長・工場長によって定期的に安全パトロールを実施しています。



■事業主パトロール

協力会社の事業主によって毎月2回以上行われる安全パトロールです。

公衆災害防止

労働災害と同じく、事業活動において関係者以外の第三者(人身・物損)に対し多大な損害を与える「公衆災害」は決して発生させてはなりません。

公衆災害防止についても安全衛生管理の実施徹底に努めており、

当社では毎年1月を「公衆災害防止月間」、1月25日から1月31日を「第三者人身災害撲滅週間」として社員に公衆災害防止意識の向上を行っています。

安全衛生教育

安全衛生環境教育をはじめとする各種社員教育を当社研修センターで実施しています。新入社員の雇入れ教育や入社年次ごとの集合研修などを定期的に行い、最新の安全法令・事故災害傾向などを教育し安全衛生環境意識の向上を行っています。



研修センター



安全衛生表彰

安全衛生優秀表彰

毎年、安全衛生成績の優秀な支社・営業所・工事事務所・合材工場に対して安全衛生優秀賞を表彰しています。副賞として表彰された部署の関係者全員に記念品が授与されます。



協力会社との係わり

安全衛生環境協力会連合会

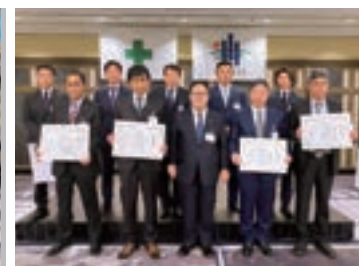
当社と共に仕事をする協力会社が組織する各支社安全衛生環境協力会の全国組織です。『各地域に於ける社会貢献を図る』を基本理念に事故災害の撲滅、作業員の能力向上、連合会活動の活性化を図っています。



連合会ホームページ



連合会役員会



連合会役員表彰

協力会社に対する安全衛生教育

当社は共に仕事をする協力会社に対して安全衛生教育を行い、現場の安全管理向上と協力会社のレベルアップを目指しています。

また、事業主セミナーを行い、協力会社事業主に対しても最新法令などをレクチャーしています。



事業主セミナー



協力会社に対する安全衛生教育の様子

大成ロテックマイスター職長制度

当社の施工現場において、労働災害防止と品質のさらなる向上を図ることは喫緊の課題です。そのためには協力会社の優秀な職長を確保することは必要不可欠です。

「大成ロテックマイスター職長制度」は、優秀な職長を当社の施工現場に確保すると共に技術・技能を継承するために優良技能者報酬制度を導入しています。



マイスター職長に認定された方のヘルメットに貼るステッカー

脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現へ。

環境負荷低減に向けた取り組み

大成建設グループでは、環境方針として「持続可能な環境配慮型社会の実現」を定め、目標達成に向けてグループ長期環境目標「TAISEI Green Target 2050」掲げて3つの社会(脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会)の実現と2つの個別課題(森林資源・森林環境、水資源・水環境)の解決を目指しています。当社もグループの一員として事業活動に伴うエネルギー使用量およびCO₂排出量を集計、産業廃棄物排出の適正処理など、環境負荷低減に努めています。

工場ではグリーン電力採用や燃料転換など、オフィスではこまめな消灯を推進、作業所では建設廃棄物の発生抑制など、すべての事業場で環境負荷低減活動を積極的に行っています。

環境データ(2024年度)

エネルギー使用量

	作業所	オフィス	工場	合計
電力使用量合計	365,976	3,433,444	30,675,442	34,474,862
電力(kwh)	365,976	3,054,285	20,048,918	23,469,179
再エネ電力※1(kwh)	0	379,159	10,626,524	11,005,683
軽油(L)	6,668,349	0	1,474,990	8,143,339
A重油(L)	0	0	7,113,450	7,113,450
廃油(再生重油)(L)	0	0	1,442,000	1,442,000
灯油(L)	7,040	59,410	1,780,530	1,846,980
ガソリン(L)	428,900	916,370	124,077	1,469,347
LPG(Kg)	38,656	16,704	1,390,068	1,445,428
都市ガス(m ³)	1	14,285	3,923,085	3,937,371
GTL(L)	0	0	35,523	35,523

※1 再生可能エネルギーを電源とした電力

産業廃棄物排出量

	作業所	工場	合計
建設廃棄物排出量(t)	237,019	1,118	238,137
リサイクル量(t)	233,925	921	234,846
最終処分量(t)	93	6	99

CO₂排出量(t-CO₂)

	作業所	オフィス	工場	合計
CO ₂ 排出量(スコープ1+2)合計	18,753	3,665	53,134	75,553
スコープ1※2	18,586	2,326	44,251	65,164
スコープ2※3	167	1,339	8,883	10,389
軽油(L)	17,471	0	3,864	21,336
A重油(L)	0	0	19,562	19,562
廃油(再生重油)(L)	0	0	3,807	3,807
灯油(L)	18	149	4,451	4,617
ガソリン(L)	982	2,098	284	3,365
LPG(Kg)	116	50	4,156	4,322
都市ガス(m ³)	0	29	8,042	8,072
GTL(L)	0	0	84	84

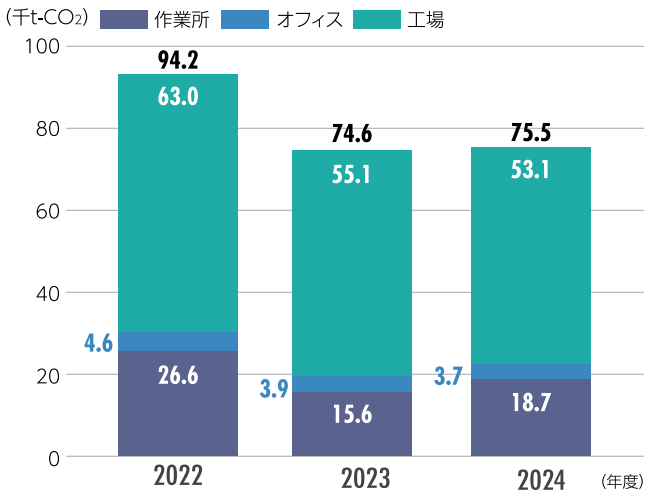
※2 燃料の燃料など、事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

※3 電気・熱・蒸気の使用に伴う温室効果ガスの間接排出

対象事業所数

	作業所	オフィス	工場
集計対象事業所数	29	75	34

CO₂排出量(部門別)



2024年度 工事実績

大成ロテックでは、全国各地でさまざまな事業活動を展開しています。2024年度に携わった代表的なプロジェクトをご紹介します。

道央自動車道 札幌管内舗装補修工事

発注者 東日本高速道路株式会社 竣工日 2025年3月22日

工事概要	切削オーバーレイ(札幌自動車道)	20,000㎡
	(道央自動車道)	160,000㎡
	床版防水工(道央自動車道)	5,400㎡
	床版上面の断面修復工(道央自動車道)	21,000L
	伸縮装置取替工(道央自動車道)	260m
	車線区画柵設置工(後志自動車道)	310m

土工部では日々の交通規制のもとで切削オーバーレイ工事を、橋梁部では劣化した床版の補修と伸縮装置の取り替えを昼夜連続規制で行いました。また、後志自動車道においては、長大橋の正面衝突防止対策として、新型の車線区画柵を設置しました。



現場代理人 菅原 秀紀

冬季には積雪や凍結があり施工可能な時期が限られる上に、夏季行楽シーズンには連続交通規制の抑制期間があるため、施工期間が限られていました。そのため、綿密な施工計画を立案した上で、効率的な施工管理に注力しました。特に、2週間の連続規制が複数回必要な橋梁部の施工では、週末ごとの交通開放を目指して現場の全体像を把握し、日々のタイムスケジュールを管理することで、期間内に効率よく完成させることを目指しました。また、ウェアラブルカメラ、ビデオ通話、デジタル野帳アプリを積極的に活用し、業務の効率化にも取り組みました。無事故で工事を完了することができ、多くの方々のご尽力により、発注者から優秀工事として表彰を受けました。

街路築造工事(2一環2築地)

発注者 東京都財務局 竣工日 2025年3月14日

工事概要	盤下げ	6,500㎡
	車道舗装(部分打換)	15,800㎡
	インターロッキングブロック舗装	3,400㎡
	自由勾配側溝設置	590m
	街渠	210m
	ガードパイプ設置	200m
	横断抑止柵	570m

東京都市計画道路幹線街路環状第2号線(江東区有明～千代田区神田佐久間町間、総延長約14km)のうち、旧青果門交差点から汐留交差点までの区間(延長600m)で、歩道・車道の整備工事を行いました。



現場代理人 清水 正明

車道・歩道の盤下げ工事は、既設路面と計画高さの差が60cmという難しい工事でした。施工中は、段差による車や人の事故を防ぐために、摺り付け勾配を常に確認しながら作業を進めることが、現場で最も苦労した点です。また、工程も非常に厳しく、2つの交差点があるため舗装区割の分割数が多くなり、工事工程に影響を与えていました。しかし、契約後にVE提案による工期短縮策を発注者に提案し認めていただいたことで、無事に工期内に工事を完了することができました。

工事完成後は、沿道のビル管理者の方々から歩道と車道が綺麗になって良かったというお褒めの言葉をいただき、発注者からも高い評価を得ることができました。

東名高速道路 浜松管内舗装補修工事(2021年度)

発注者 中日本高速道路株式会社 竣工日 2024年5月18日

工事概要	切削オーバーレイ	61,000㎡
	オーバーレイ	123,000㎡
	セメントコンクリート舗装	2,000㎡
	橋梁レベリング層用グースアスファルト	1,800㎡
	床版防水工	93,000㎡
	路面標示工	153,000m

日本随一の主要幹線である東名高速道路(浜松IC～豊川IC)および新東名高速道路(新静岡IC～新城IC)の本線と休憩施設において、舗装補修および橋梁部の床版防水工事を行いました。



現場代理人 三條 直樹

6車線・最高速度120km/hの区間で、片側2車線を確保するために車線シフトを行いながら、安全管理に細心の注意を払い施工しました。3年間にわたる舗装補修を所員が一丸となって計画通りに進めることができました。

駐車マスの閉鎖、車線シフト規制、夜間インター閉鎖など、高速道路利用者への影響を最小限に抑えるための施工計画の工夫を行い、騒音測定、工事車両無音誘導システムの活用、作業時間の調整、近隣住民への周知を通じて騒音に関する苦情を防ぎ、工事を完成させました。これらの取り組みが発注者から高く評価され、表彰を受けました。

阪奈高速道路事務所管内(特定更新等)舗装補修工事(令和3年度)

発注者 西日本高速道路株式会社 竣工日 2024年6月24日

当工事は、阪奈高速道路事務所管内の舗装修繕を行うものです。施工路線は、西名阪自動車道(全線)、阪和自動車道(松原JCT～泉南IC)、堺泉北道(全線)、近畿自動車道(松原JCT～長原IC)、南阪奈道路(全線)と、広範にわたる施工範囲でした。

路線によっては昼間施工や夜間施工があり、一部では昼夜連続施工も実施しました。また、各路線ごとに夜間通行止め工事や夜間IC閉鎖による短期集中工事が全9回含まれていました。さらに、保全工事では初となるBLG舗装(床版防水と橋梁レベリング層を兼ね備えた工法)やセンターパイプ、厚層施工などの特殊な工種にも対応しました。



工事概要	切削オーバーレイ工(土工部)	42,000㎡
	切削オーバーレイ工(橋梁部)	48,000㎡
	レベリング工(BLG)	110t
	床版防水工	30,000㎡
	端部防水工	3,800㎡
	車線分離柵(センターパイプ)	100m



監理技術者 赤坂 顕久

供用中の高速道路上での規制という非常にリスクの高い環境での工事で、第三者災害は重大災害となります。特に高速道路を利用されているお客様への災害防止に努め、日々の交通ルール・規制方法などを周知徹底し、現場での声掛けなどの安全管理活動が実を結び、全工期の無事故無災害を達成することができました。

また、BLG舗装をはじめとする特殊施工における機械部・品質部の全面協力や、夜間通行止め時の全国各地からの応援社員を迎えての施工などを完遂し、まさに大成ロテック全社一丸の総合力を感じました。

地道な施工管理と、発注者への誠意ある対応により高評価を受け、表彰状と感謝状をいただくことができました。